

## 平成 29 年度第 3 回あしや子ども笑顔ネット会議

日 時：平成 30 年 3 月 12 日（月）15 時～17 時

場 所：あしや市民活動センターリードあしや 会議室 C

出席者：朝倉己作（(特活)芦屋市手をつなぐ育成会）宇佐見裕子（精道小学校 smile ねっと）金木友子（精道中学校学校支援ボランティアコーディネーター）小泉星児（芦屋市商工会青年部）辻本久夫（こくさいひろば芦屋）長城紀道（芦屋法律事務所）宮平（芦屋市社会福祉協議会）芦屋市企画部市民参画課 御宿係長 飯星課員  
芦屋市立あしや市民活動センターリードあしや 橋野

### 1 学生の振り返りから

- (1) 芦屋 777 プロジェクトに参画した学生からの想い（甲南大学 村井 綾子氏）  
笑顔ネットの目指す「次世代を担う子どもの自発的な活動を促す」ことは達成できた。「芦屋さくらまつり清掃ボランティア」という次の活動に繋がっている。  
（原文参照 4 ページ）

- ・さくらまつり清掃ボランティアの学生企画は、コープこうべ、教育委員会、企業の協賛によりふくらみが出てきている。
- ・さくらまつり清掃ボランティア運営委員である甲南高校生による、甲南学校内での清掃ボランティア呼びかけを検討中であると報告を受けている。

他事例として以下の報告があった。

- ・精中応援隊の活動に県立芦屋高等学校ボランティア部から 6 名の参加協力があった。継続連携を期待している。
- ・県立芦屋高等学校では県政 150 周年事業として、芦屋 777 プロジェクトに関わった学生たちにより、企画運営に取り組んでいると教頭先生より報告を受けた。また、神戸新聞社とも協働事業を計画中であるとのことである。

### (2) 意見交換

- ・芦屋 777 プロジェクトへの関与から、次のボランティア運営までの繋がりは素晴らしい。始まりは「芦屋 777 プロジェクト」というのを芦屋さくらまつり時に POP にするのはどうだろう。
- ・行政との協働がよかったとあったが、何が魅力であったのだろうか。  
→推測ではあるが、日常的に出会うことのない業種との連携会議や、市長・市民とのふれあいが身近に起こったことが魅力的に感じたのではないか。
- ・学生だけでというのは難しいかもしれない、受け皿が必要。
- ・学生同士のつながりが集積されつつあるが、団体同士のつながりも考えなければならぬ。

## 2 討議 笑顔ネットの仕組み、活動と予定

メンバー外からの課題、相談を受ける場とする。

「ウイズ芦屋」に次回会議4月25日（水）15時に参加いただき、15分ほどのプレゼンテーションをしていただく。

### (1) 提案（リードあしや、他）

就労継続支援B型事業所「ウイズ芦屋」がリードあしやに相談に来られた。より多くの団体と繋がりたいということから、こういった団体の課題を笑顔ネットで伺い、情報の共有、意見交換、繋げるという場にしてはいかがか。

ウイズ芦屋の現在抱えている課題は以下の通り

- ・障がい者については、居場所、特別支援学校の卒業後の受け皿、仕事開拓の横連携や、制度の変革について一般への啓発
- ・学童利用者については、学童は現在19時までだがその後の受け入れを、高学歴の障がい者による学習支援や、子ども食堂などの展開を考えている。

### (2) 意見

- ・笑顔ネット参加団体の課題を話し合う場であったが、メンバー以外の団体も受け入れる。
- ・つながりたいが、どこへ相談したらよいか知らない団体もある。相談する場があることは良い。
- ・営利活動団体は受け入れない。
- ・課題を抱える団体からのヒアリングをし、メンバーからのアイデア等を伺い、団体にフィードバックするということが良いのでは。
- ・障がい者に関しては、市内事業所は足りていない。放課後事業所は13カ所、芦屋市内には仕事が無く、仕事後の行き場も無い。公的施設は夜間利用できない又は、交通の便が悪いなど使える場所が無い。

## 3 その他

### (1) 子ども食堂について

- ・社協からこくさいひろば芦屋にヒアリングがあったが、その後の経過を教えてくださいという問いに対し、社協からは、社協が主体となるのではなく、主体団体を支援することを検討していると告げられた。
- ・芦屋浜地域など、ニーズがある地域もあるが周知されていないのではないか。
- ・こくさいひろば芦屋としては、夏休み平日お昼の食堂を開いてほしいなど、長期休暇期間に開くことを希望している。
- ・支援していただける可能性のある団体は、木口記念財団、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、社会福祉協議会などが考えられる。
- ・上宮川文化センターでは調査をし、検討していると聞いた。

- ・クラーク記念国際高等学校では、実施していると聞いている。(リードあしやが後日、聞き取りをする。)

## (2) 防災関連

- ・芦屋市防衛協会（初代会長小泉氏）が立ち上がった。来るべき防災に備えたい。この場でも課題を投げたい。
- ・避難所となった場合を想定して、学校の給食室の調理器具を事前に見せていただくことは、衛生管理基準が厳しく断られた。
- ・防災倉庫に 100 人用鍋がある。
- ・防災訓練等、7市1町の取り組みを2年前に報告があった。見直すことが必要だと思う。資料を市民参画課で探していただきたい。

## (3) その他

- ・ウルトラ警備隊諸星隊員の銅像制作に取り組んでいる埼玉県の団体に、芦屋 777 プロジェクトをきっかけに、小泉氏にアドバイザーの依頼があり受けた。芦屋 777 プロジェクトの名を繋げていきたい。
- ・行政のHPに「ボランティア募集」を取りまとめたページが欲しい。行政が出していることで信頼があり、参加しやすい。
- ・市職員のボランティア活動の推進を希望する。

## 3 まとめ

- ・「ウィズ芦屋」に次回プレゼンをしていただく。
- ・笑顔ネットとしては、内部メンバー、外部団体からの課題を受け入れ繋ぐ。
- ・次回の課題は、子ども食堂、防災関連について協議する。
- ・平成 30 年度第 1 回会議は 4 月 25 日（水）15 時から 17 時、ウィザスあしやセミナー室にて開催する。

以上

## 芦屋 777 プロジェクトのボランティア活動に参加して

甲南大学 村井 あや子

私が芦屋 777 プロジェクトに参加したきっかけは、以前からボランティアをしたいと思っていて、大学のホームページのボランティア情報から 777 美術スタッフ募集の欄を見ました。自分は中学高校と美術部に入っていたので、このボランティアなら私も力になれるのではないかと思い応募したのがきっかけでした。それから、777 の公式ツイッターのアカウントを見つけたので、そちらにメールを送らせていただきました。返事も即答で、とても歓迎していただいたので嬉しかったです。

SNS を使った広報は学生にとって見やすいですし、参加しやすいものでした。実際参加して感じたことは、このイベントは沢山の人に絶賛される素晴らしいイベントだったなということです。小さいお子さんから高齢者の方まで、色んな世代の人と交流できたのも楽しかったし、何より行政と民間が 1 つになっていたところが 777 プロジェクトの大きな魅力だったのではないかと思います。

そして、私が 1 番、777 プロジェクトで学んだなと思うことは、地域のことを深く知るきっかけになったということです。私は神戸市に住んでいて、西宮市の大学に通っているのですが、777 プロジェクトに参加するまでは、芦屋の地は大学の通学途中に通過するだけでした。以前までは芦屋に関して何も知らなかったけれども、こんなにも人情、魅力溢れる素晴らしい町だったんだという発見がありました。同時に、芦屋の方も芦屋以外の方にも芦屋のことをもっと知ってもらいたいと思うようになりました。

これをきっかけに、777 プロジェクトからさくらまつりへの思いが強まりました。またボランティアを通じて積極的な生徒達と共に、学生である自分たちが、元々与えられたものではない"何か"を作っていけたらと思っています。同年代、違う年代と協同することを目的に、自分たちがもっとやれる環境を作っていきたい。ゴミのない綺麗なさくらまつりにしたい。そんな一心で、「芦屋おでん」と「清掃活動」の両方を行なっていきたいと考えています。楽しい活動にするために、皆んなで一丸となって頑張ります。